

2019年 通常総会 議案資料

日 時 : 2019年3月29日(金) 16:00~17:00

場 所 : 東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館 3階 233講義室

16:00~17:00 通常総会

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事

第1号議案	議事録署名人の選出	2
第2号議案	2018年度 事業報告	2
第3号議案	2018年度 収支決算報告	8
第4号議案	2019年度 事業計画	13
第5号議案	2019年度 収支予算	17
第6号議案	2019年度 理事および監事の選出	18
第7号議案	定款の変更	23

4. 閉会

17:00~17:20 フェロー贈呈式/学術奨励賞授与式

17:30~19:30 懇親会



特定非営利活動法人

日本バーチャルリアリティ学会

第1号議案 議事録署名人の選出

理事から2名を議事録署名人に選任します。

第2号議案 2018年度 事業報告

2018年度は、例年の主要行事として、第23回目となる大会を東北大学において開催いたしました。また、VR技術者講習会を11月(東京)に、VR技術者認定試験を12月(東京・大阪)に行いました。

1. 会員に関する事項

2018年度は、1996年に学会が発足して以来23年目に入り、引き続き、各種行事、学会ホームページなどにおいて、入会者の勧誘を行いました。賛助会員の新規加入は4社を得ました。また、2018年通常総会議決により、正会員33名を会員資格喪失(定款第9条 会費未納)とさせて頂きました。

	正会員	学生会員	賛助会員
1996年度末数	381	100	31
1997年度末数	497	149	38
1998年度末数	578	172	38
1999年度末数	628	205	38
2000年度末数	692	228	37
2001年度末数	686	230	34
2002年度末数	761	257	33
2003年度末数	788	265	30
2004年度末数	844	273	26
2005年度末数	828	269	21
2006年度末数	869	191	23
2007年度末数	835	268	23
2008年度末数	832	281	23
2009年度末数	842	263	22
2010年度末数	855	307	18
2011年度末数	848	361	20
2012年度末数	853	341	20
2013年度末数	857	312	20
2014年度末数	867	307	18
2015年度末数	900	303	19
2016年度末数	960	335	34
2017年度末数	1033	383	40
2018年度末数	1078	379	40
2018年度目標	1045	390	41
2018年度目標との差	33	▲11	▲1

2. 広報・出版に関する事項

(1) 学会誌

2018年度は、第23巻として、3月、6月、9月、12月と年間4回の発行を行いました。

3分野の特集を企画し、No.4では、東北大学で行われた第23回大会報告を特集致しました。

	特集内容
Vol.23, No.1	心とVR-ポジティブコンピューティング-
Vol.23, No.2	超人スポーツ
Vol.23, No.3	Bio-inspired Reality-VRからBRへ-
Vol.23, No.4	第23回大会報告

(2) 論文誌

2018年度は、論文誌を3月、6月、9月、12月と年間4回発行しました。4分野の特集を企画し、特定領域の成果を一覧できるように致しました。本年度の特集内容と掲載された論文数は以下の通りです。

	特集内容	特集 投稿(採録数)	一般 採録数
Vol.23, No.1	ヒューマンサイエンスと医療・福祉・ヘルスケア工学	12(4)	2
Vol.23, No.2	香り・味・人・システム3(一般論文として掲載)	8(2)	1
Vol.23, No.3	クロスモーダル/マルチモーダル2	23(10)	5
Vol.23, No.4	AIとVR	4(3)	3

種類	基礎論文	応用論文	コンテンツ論文	総説論文	ショートペーパー	計
論文数	22	2	2	1	3	30

(3) 文化・芸術

2018年11月4日にVR文化フォーラム2018 in 清澄白河を開催しました。

(4) ニュースレター

会員宛てに月1回(年12回)、電子メールによるニュースレターの送付を行いました。同様に、学会WEBサイトへの投稿、そしてtwitterへの投稿を行ないました。内容は、1. 報告集 2. 学会からのお知らせ主催・共催行事のご案内/協賛行事のご案内/論文誌に関するご案内/ニュースレター編集委員会からのお知らせ 3. 関連情報 CALL FOR PAPER/CALL FOR PARTICIPATIONなどで構成され、バーチャルリアリティに関する国内外の情報を中心に情報提供を行いました。

(5) 電子広報

学会ホームページにて、年次大会、VR技術者認定制度、各種会議、論文誌特集等の情報を随時更新、また学会誌のバックナンバーを公開しております。(https://vrsj.org/)

3. 主催・共催事業に関する事項

2018年度に主催・共催した事業は以下となります。(■主催事業・□共催事業)

■ 第23回日本バーチャルリアリティ学会大会

2018年9月19日~21日 東北大学

参加数 615名

一般講演 219件(OS発表含) / 技術・芸術展示(OS含) 46件 / 企業展示 9社

特別講演1: トヨタのパートナーロボット開発 北濱 兼一

特別講演2: 最近の津波解析技術の向上と課題—東日本大震災を経験して 今村 文彦

- 第26回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト (IVRC2018)
 予選大会 2018年9月19日～21日 東北大学 (VRSJ2018の展示OSとして開催)
 ・応募 115 企画から選出された 22 企画が作品を展示. 10 作品が決勝大会に進出.
 決勝大会 2018年11月14日～16日 幕張メッセ (InterBee と併催された DCEXPO 内で開催)
 ・一般学生部門 10 作品, Laval Virtual 招待 1 作品, ユース部門 4 作品, 計 15 作品が展示
 ・総合優勝:「ブレインツリー」明治大学 総合数理学部 先端メディアサイエンス学科
 ・日本 VR 学会賞 (第2位):「L'Allumeur de Réverbères」Paris 第8大学
 ・川上記念特別賞 (第3位):「孤独を Foot Bath」電気通信大学 情報理工学部 総合情報学科
 ・ユース部門金賞:「ARCO-Avoid the Risks of CO-」立教池袋高校 数理研究部
 ・Laval Virtual Award:「ピノーズ」「TeleSight」慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
 ほか, 観客賞, 審査員特別賞, 協賛企業各賞が決定

- VR 文化フォーラム 2018 in 清澄白河
 2018年11月4日

- ICAT-EGVE 2018
 2018年11月7日～9日 リマノス (キプロス)
 参加者数 51 名 (+ 公開講座として開催された基調講演に 78 名)
 Paper 28 件 (Full 21 件, Short 7 件, 投稿数 54 件) Poster 6 件, Demo 5 件

- 第28回「人工現実感研究会」
 連催: 電子情報通信学会メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会 (IEICE-MVE),
 映像情報メディア学会ヒューマンインフォメーション研究会 (ITE-HI), 情報処理学会エンタテ
 インメントコンピューティング研究会 (IPSJ-EC), 情報処理学会ヒューマンコンピュータインタ
 ラクション研究会 (IPSJ-HCI), ヒューマンインタフェース学会デバイスメディア指向ユーザイ
 ンタフェース研究会 (HI-SIGDeMO)
 2018年6月14日～15日 東京大学 福武ホール

- 高臨場感ディスプレイフォーラム 2018
 共催: 映像情報メディア学会 (映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会, 情報ディス
 プレイ研究委員会, 立体映像技術研究委員会), 画像電子学会 (企画委員会), 日本バーチャルリア
 リティ学会, 電気学会 (電子デバイス技術委員会 第二期次世代インタラクティブディスプレイ協
 同研究委員会), 電子情報通信学会 (電子ディスプレイ研究専門委員会)
 2018年11月26日 千代田区立日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール

4. 企画事業に関する事項

2018年度に企画した事業は以下となります。

(1) 研究委員会

計 15 の研究委員会が, 下表のように会員に公開する研究会 (含, 他学会との共催), 講演会, シンポ
 ジウムを開催致しました。研究委員会助成金には, 8 つの研究委員会より申請があり, 各企画が実施
 されました。この助成金は研究委員会が本学会員に有意義な活動を特別に企画する場合において, そ
 の企画を助成することにより VR に関する研究の発展に寄与することを目的としています。

研究委員会名	研究会等開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	5	継続
複合現実感研究委員会	6	継続

アート&エンタテインメント研究委員会	3	継続
VR 心理学研究委員会	3	継続
テレマージョン技術研究委員会	5	継続
香りと生体情報研究委員会	4	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	1	継続
ハプティクス研究委員会	6	継続
情報技術と文化の融合調査研究委員会	4	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	1	継続
デジタルミュージアム研究委員会	2	継続
VR と超臨場感研究委員会	3	継続
トレイグジスタンス研究委員会	3	継続
超高齢社会の VR 活用研究委員会	3	継続
超人スポーツ研究委員会	1	継続

(2) VR 技術者認定講習会・認定試験

VR 技術に関する教科書「バーチャルリアリティ学」をテキストとし、第 15 回 VR 技術者講習会（セオリーコース）を 2018 年 11 月 17 日に東京で、VR 技術者認定試験を 12 月 22 日に全国 2 ヶ所（東京、大阪）にて実施いたしました。

VR 技術者講習会/VR 技術者認定試験 参加者数

第 15 回 講習会 申込数 77 名 参加者 73 名（うち学生 34 名）

第 15 回 認定試験 申込数 160 名 参加者 143 名/合格者 128 名

5. 会議に関する事項

(1) 総会

2018 年通常総会を 3 月 30 日に東京大学本郷キャンパス工学部 2 号館にて行いました。

(2) 理事会

合計 6 回の理事会を開催いたしました。開催日程は次の通りです。

尚、理事会のない月に会長・副会長及び総務・経理担当者による総務会議を開催致しました。

回	開催日	会場	主な議事
159	1 月 19 日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2 号館 31B	通常総会準備, フェロー・学術奨励賞選考報告, VR 技術者認定試験結果報告, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告
160	3 月 9 日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2 号館 31B	通常総会資料確認, 2017 年決算・2018 年予算の提出, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告, 23 回大会準備, IVRC2018 開催予定, ICAT 開催予定
161	5 月 21 日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2 号館 31A	論文賞について, 学会事務委託進捗報告, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告, 研究委員会助成金報告, 23 回大会準備, VR 技術者認定制度開催予定, IVRC2018 開催予定
162	7 月 24 日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2 号館 309 会議室	論文賞選考, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告, IVRC2018 書類審査結果報告, 文化フォーラム開催予定
163	9 月 19 日	東北大学 青葉山新キャンパス 青葉山コモンズ 講義室 10	第 23 回大会報告, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告, IVRC2018 予選予定, 学会事務委託進捗報告

164	11月26日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2号館 31A	通常総会進行スケジュール確認, 学会事務委託進捗報告, 23回大会結果報告, 論文誌進捗報告, 学会誌進捗報告, 研究委員会助成金報告, IVRC 決勝大会報告, 文化フォーラム開催報告, VR 技術認定制度申込状況報告
-----	--------	--------------------------	--

(3) 評議員会

回	開催日	会場	主な議事
1	3月30日	東京大学 本郷キャンパス 工学部 2号館 3階 233 講義室	年間報告・計画について
2	9月20日	東北大学 青葉山新キャンパス	年間報告・計画について

6. 表彰に関する事項

(1) フェロー

日本バーチャルリアリティ学会フェローは、バーチャルリアリティの学術文化および本会の発展に顕著な貢献を成し、将来にわたって本会の活動を積極的に推進しうる者を顕彰するために、2010年度から称号授与が始まりました。本制度は、会員による推薦に基づいており、2018年度の推薦書より、日本バーチャルリアリティ学会の活動に多大な貢献をなした以下の2名に贈呈することを決定致しました。

神部 勝之 (株式会社ソリッドレイ研究所)
清川 清 (奈良先端科学技術大学院大学)

(2) 論文賞

論文誌 Vol.22 No.1 から Vol.22 No.4 に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し、5件の論文に論文賞を贈呈致しました。

- CHILDHOOD: 小児の体験を再現する装着型身体性変換スーツ
佐藤綱祐, 西田 惇, 高鳥 光, 鈴木健嗣 Vol.22, No.1, pp.71-80
- 顎部電気刺激による味覚提示・抑制・増強手法
青山一真, 櫻井健太, 古川正紘, 前田太郎, 安藤英由樹 Vol.22, No.2, pp.137-143
- 周期運動する実物体と高速時分割構造化光を用いたリアリスティックディスプレイの開発
吉田貴寿, 渡辺義浩, 石川正俊 Vol.22, No.2, pp.229-240
- 背景移動量操作を利用した視触覚相互作用生起によるタッチパネルでの擬似触力覚提示
宇治土公雄介, 鳴海拓志, 伴 祐樹, 谷川智洋, 広田光一, 廣瀬通孝 Vol.22, No.3, pp.305-313
- “BigRobot”: 歩行感覚を拡張する移動型モーションベース
岩田洋夫, 木村優太, 圓崎祐貴, 矢野博明 Vol.22, No.4, pp.457-465

(3) 学術奨励賞

第23回日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者9名に対して、学術奨励賞を贈呈することを決定致しました。

1 口頭発表部門

- バーチャル環境を用いたテニスのサービスへの反応と熟練度の関係解析
斉藤 慶 (慶応義塾大学)
- 吸引圧力の時空間分布制御に基づく装着型触覚ディスプレイ
- 柔軟物接触時に生じる力分布の実間計算法 -
佐瀬 一弥 (東北学院大)

- ブロックとコネタを用いた VR 世界構築とインタラクション
市川 将太郎 (東北大学)
- 容貌変形を用いた精神状態の切り替え支援システム開発
世田 圭佑 (東京大学)
- HMD 一体型力覚提示装置“SPIDAR-HMD”の改良
月川 竜輝 (東京理科大学)

2 技術・芸術展示部門

- 触覚伝送を伴うバスケットボールのライブフィードバックの実践
早川 裕彦 (慶應義塾大学)
- 臀部皮膚せん断変形による座面からの突き上げ感の提示
堀江 新 (東北大学)
- 指腹における吸引圧力の時空間分布制御に基づく多指装着型触覚ディスプレイ
永野 光 (東北大学)
- Paraflap : パラメトリックスピーカを使用した, わくわく感を誘発する表現創出のための手法
國枝 彩乃 (首都大学東京)

(4) ICAT-EGVE 2018 (キプロス)

以下の賞が贈呈されました.

① Best Paper Award

Evaluation of Generic and Content – Specific Embodied Virtual Agents as Museum Guides for Historical Exhibitions

Susanne Schmidt, Gerd Bruder, and Frank Steinicke

② Honorable Mention Papers

Blowing in the Wind: Increasing Copresence with a Virtual Human via Airflow Influence in Augmented Reality

Kangsoo Kim, Gerd Bruder, and Gregory F. Welch

Soft Finger-tip Sensing Probe Based on Haptic Primary Colors

Fumihiko Kato, Yasuyuki Inoue, and Susumu Tachi

③ Best Poster Award

Visuo-haptic Redirected Walking Using Handrail

Keigo Matsumoto, Takuji Narumi, Yohei Yanase, Yuki Ban, Tomohiro Tanikawa, and Michitaka Hirose

④ Best Demo Award

VirtualCar: Virtual Mirroring of IoT-Enabled Avatars in AR, VR and Desktop Applications

Georgios Pappas, Joshua Siegel and Konstantinos Politopoulos

第3号議案 2018年度 収支決算報告

1. 収支計算書

収支計算書
平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：円)

1) 収入の部						
勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	内訳科目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		3,000	4,462	1,462	
入会金収入	入会金収入		900,000	790,000	▲ 110,000	
会費収入	正会員会費収入		10,000,000	10,600,000	600,000	
	学生会員会費収入		1,500,000	1,520,000	20,000	
	賛助会員会費収入		3,800,000	4,000,000	200,000	
	一般会員会費収入		200,000	160,000	▲ 40,000	
	購読会員会費収入		600,000	620,000	20,000	
事業収入	過去会誌頒布収入	(会員のみ)	50,000	0	▲ 50,000	
	研究発表会収入	大 会	8,350,000	10,144,003	1,794,003	
		IVRC	4,220,000	4,016,014	▲ 203,986	研究発表会収入合計
		研究委員会活動収入	2,500,000	4,447,791	1,947,791	18,607,808
	管理費収入	大 会	1,500,000	1,500,000	0	
		IVRC 講習 会	422,000	401,601	▲ 20,399	管理費収入合計
		講習 会	360,000	141,400	▲ 218,600	2,043,001
通常総会収入		90,000	68,000	▲ 22,000		
講習会収入		3,600,000	1,414,000	▲ 2,186,000		
投稿料収入		4,500,000	2,905,000	▲ 1,595,000		
その他収入	広告収入		0	0	0	
	雑収入		1,800,000	1,914,861	114,861	
	受取利息収入		10	8	▲ 2	
当期収入合計			44,395,010	44,647,140	252,130	
前期繰越収支差額			41,766,420	41,766,420	0	
収入合計			86,161,430	86,413,560	252,130	
2) 支出の部						
勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	内訳科目				
管理費	事務局運営費		0	1,024,866	1,024,866	
	印刷費		200,000	79,070	▲ 120,930	
	消耗品費		500,000	116,224	▲ 383,776	
	諸会費		80,000	90,000	10,000	
	図書費		10,000	0	▲ 10,000	
	福利厚生費		20,000	22,283	2,283	
	通信運搬費		250,000	252,223	2,223	
	情報システム管理費		1,000,000	1,074,266	74,266	
	電子広報費		170,000	162,000	▲ 8,000	
	会議費		170,000	140,642	▲ 29,358	
	雑給付費		11,500,000	7,419,423	▲ 4,080,577	
	光熱水料		120,000	115,377	▲ 4,623	
	賃借料		2,000,000	1,901,795	▲ 98,205	
	顧問料		240,000	237,600	▲ 2,400	
	支払手数料		200,000	192,605	▲ 7,395	管理費合計
	租税公課		3,000	1,881	▲ 1,119	12,830,255
事業費	通常総会費		370,000	458,176	88,176	
	研究発表会費	大 会	8,350,000	8,348,672	▲ 1,328	
		IVRC	4,220,000	3,978,249	▲ 241,751	
		研究委員会活動費	2,500,000	3,521,079	1,021,079	研究発表会費合計
		その他	12,000	12,000	0	15,860,000
	補助金費	IVRC	1,000,000	1,000,000	0	
	講習会費		1,680,000	1,091,386	▲ 588,614	
	研究部会費		1,050,000	1,050,000	0	
印刷製本費		4,800,000	3,874,236	▲ 925,764		
通信運搬費		700,000	724,043	24,043		
授与費		500,000	526,226	26,226		
その他	雑費		700,000	610,000	▲ 90,000	
	準備金積立		0	0	0	
当期支出合計			42,345,000	38,024,322	▲ 4,320,678	
当期収支差額			2,050,010	6,622,818	4,572,808	
次期繰越収支差額			43,816,430	48,389,238	4,572,808	
支出合計			86,161,430	86,413,560	252,130	

2. 貸借対照表

貸借対照表

平成30年12月31日現在

(単位：円)

1) 資産の部			
勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産	現金預金	46,272,651	
	未収金	6,454,501	
	前払費用	166,153	
流動資産合計			52,893,305
固定資産	事務局準備金	20,000,000	
	国際会議準備金	13,800,000	
	国内会議準備金	9,000,000	
	資料編纂・出版準備金	1,800,000	
	差入保証金	1,268,000	
固定資産合計			45,868,000
資産合計			98,761,305
2) 負債の部			
勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動負債	未払金	3,039,976	
	前受金	271,000	
	預り金	52,752	
流動負債合計			3,363,728
固定負債	退職給付引当金	1,140,339	
固定負債合計			1,140,339
負債合計			4,504,067
3) 正味財産の部			
勘定科目		金額	
大科目	中科目		
正味財産		94,257,238	
正味財産合計			94,257,238
負債及び正味財産合計			98,761,305

3. 財産目録

財産目録

平成30年12月31日現在

(単位：円)

		金額	
(資産の部)			
I. 流動資産			
1. 現金預金			
(1) 現金			
現金手許有高		35,916	
(2) 振替貯金			
東京振替貯金局		5,600,113	
(3) 普通預金			
みずほ銀行本郷支店		32,134,172	
みずほ銀行本郷支店他(委員会口)		8,213,868	
三菱UFJ銀行本郷支店		134,835	
きらぼし銀行春日町支店		100,217	
りそな銀行本郷支店		53,530	
			現金預金合計
			46,272,651
2. 未収金			
平成30年度会費		2,183,000	
平成29年度会費		452,000	
論文投稿料		715,000	
研究発表会		3,104,501	
			未収金合計
			6,454,501
3. 前払費用		166,153	166,153
II. 固定資産			
1. 事務局準備金			
定期預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店他		20,000,000	20,000,000
2. 国際会議準備金			
定期預金 みずほ銀行本郷支店		13,800,000	13,800,000
3. 国内会議準備金			
定期預金 りそな銀行本郷支店		6,000,000	
定期預金 みずほ銀行本郷支店		1,000,000	
定期預金 みずほ銀行本郷支店(委員会口)		2,000,000	9,000,000
4. 資料編纂・出版準備金			
定期預金 みずほ銀行本郷支店		1,800,000	1,800,000
5. 差入保証金		1,268,000	1,268,000
資 産 合 計			98,761,305
(負債の部)			
I. 流動負債			
1. 未払金			
事務局運用費		1,027,772	
印刷製本費		1,000,301	
消耗品費		337,117	
事：通信運搬費		15,408	
講習会費		603,762	
雑給費		55,598	
研究委員会口		18	
			未払金合計
			3,039,976
2. 預り金			
社会保険等		52,752	52,752
3. 前受金			
平成31年度年会費前受		271,000	271,000
II. 固定負債			
1. 退職給付引当金			
退職給付引当金		1,140,339	1,140,339
負 債 合 計			4,504,067
正 味 財 産			94,257,238

4. 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：円)

	金額	
(増加原因の部)		
Ⅰ. 基本財産利息収入	4,462	
Ⅱ. 入会金収入	790,000	
Ⅲ. 会費収入		
正会員会費収入	10,600,000	
学生会員会費収入	1,520,000	
賛助会員会費収入	4,000,000	
一般会員会費収入	160,000	
購読会員収入	620,000	
Ⅳ. 事業収入		
過去会誌頒布収入	0	
研究発表会収入	18,607,808	
管理費収入	2,043,001	
通常総会収入	68,000	
講習会収入	1,414,000	
投稿料収入	2,905,000	
Ⅴ. その他収入		
広告料収入	0	
雑収入	1,914,861	
受取利息収入	8	
増加額合計		44,647,140
(減少原因の部)		
Ⅰ. 管理費	12,830,255	
Ⅱ. 事業費		
通常総会費	458,176	
研究発表会費	15,860,000	
補助金費	1,000,000	
講習会費	1,091,386	
研究部会費	1,050,000	
印刷製本費	3,874,236	
通信運搬費	724,043	
授与費	526,226	
Ⅲ. その他		
雑費	610,000	
減少額合計		38,024,322
当期正味財産増加額(減少額)		6,622,818
前期繰越正味財産額		87,634,420
期末正味財産合計額		94,257,238


5. 会計監査報告

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会


会長 岩田 洋夫 殿

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会の2018年度決算報告書について監査を実施しました。その結果、帳簿類並びに領収書等は完備されており、支出ならびに収支決算について適切であると判断いたしました。

2019年 2 月 22 日

監事 伊福部 達 印 

2019年 2 月 27 日

監事 榎並 和雅 印 

第4号議案 2019年度 事業計画

2019年度は、学会発足以来24年目であり、これまでの実績に基づいて、より充実した学会運営体制を構築してまいります。おもな事業として、第24回大会を東京大学で開催致します。これまで以上に会員サービスの一層の充実を図るとともに、学会の基盤をさらに固めるために、会員数の増加を推進致します。

1. 会員に関する事項

2019年度は、学会が発足後24年目であり、一層充実した組織体制を構築する必要があります。このため、会員増を目指した積極的な勧誘を継続的に実施いたします。学会WEBページでの入会受け付けなどにより、入会希望者の便を図るとともに、賛助会員についても関連団体・企業の新規加入を目指して努力いたします。2019年度の目標を次表に示します。また、定款第9条に従い、所定の手続きの上、正会員54名、学生会員4名を資格喪失(会費未納入)とします。

	正会員	学生会員	賛助会員
2018年度末数	1078	379	40
2019年度目標数	1090	390	42

2. 広報・出版に関する事項

(1) 学会誌

2019年度は、第24巻として、3、6、9、12月の年4回の発行を予定しており、特集として以下の3分野の企画と、東京大学で行われる第24回大会報告を予定しています。

	特集内容
Vol.24, No.1	VRとメディアアート 芸術表現と科学技術の往来
Vol.24, No.2	(仮) VR応用と新興産業
Vol.24, No.3	(未定)
Vol.24, No.4	第24回大会報告

(2) 論文誌

2019年度も、論文誌は年4回(3、6、9、12月)発行します。会員からの投稿論文(基礎論文、応用論文、コンテンツ論文、ショートペーパー)および、特定のトピックスに焦点をあてた専門家による総説論文を対象とします。また、毎号特集テーマを決め、ゲストエディタをお願いして、特集論文の投稿を積極的に勧誘します。

尚、今後の特集内容は以下を企画しております。

	特集内容
Vol.24, No.1	VR心理学7
Vol.24, No.2	テレラグジスタンス
Vol.24, No.3	アート&エンタテインメント5
Vol.24, No.4	ウェアラブル技術と知覚・運動・認知拡張

(3) 文化・芸術

年に2回程度、国内/国外の研究機関・文化施設との連携による開催を検討しております。

下記を提案中につき、ご検討をお願いいたします。

(1) 年次大会 会期中 エクスカーション@東京都現代美術館

2019年3月29日(総会当日)に約3年の改修工事を経てリニューアル開館を迎える東京都現代美術館が、夏から秋のハイシーズンに開催する企画展「MOT サテライト 2019 ひろがる地図」「あそびの じかん」の会期中に、年次大会の開催があります。夜間開館とうまくスケジュールがあ

えば、ナイトミュージアム企画も展開可能につき、ぜひエクスカージョンとしてご参加ください。

(2) VR 文化フォーラム@清澄白河

2年にわたり「MOT サテライト」シリーズの会期中に清澄白河において開催されてきた国内での文化フォーラムを、下記の2案で開催検討中です。

- 1) 夏「MOT サテライト 2019 ひろがる地図」(8/3-10/20)
- 2) 秋「ダムタイプ-アクション+リフレクション」「ミナ ペルホネン」(11/16-2/16)

(4) ニュースレター

バーチャルリアリティに関する有益な情報を整理してニュースレター形式に編集し、月に1回、電子メールにて会員に送付します。また、ホームページでも会員向けに最新のニュースレターを掲載します。編集体制は委員長1名、幹事2名、編集委員12名、顧問4名から成り、各月を担当する12名の編集委員の任期は2期4年にて満了となります。

内容は、2018年度に続き「1. 報告集 2. 学会からのお知らせ 主催・共催行事のご案内/協賛行事のご案内/論文誌に関するご案内/ニュースレター編集委員会からのお知らせ 3. 関連情報 CALL FOR PAPER/CALL FOR PARTICIPATION」などで構成されます。

本学会員が国内外のバーチャルリアリティの動向や進行中のアクティビティを的確に把握できるよう努め、多様なイベントにあわせて随時特集を掲載、会員サービスの向上を目指して刊行いたします。

(5) 電子広報

取材や問い合わせに対応しています。

また、学会ホームページにて、年次大会、VR技術者認定制度、各種会議、論文誌特集等の情報を随時更新、しております。(https://www.vrsj.org/)

(6) 出版

教科書「バーチャルリアリティ学」の更なる拡充を図ります。特にコンテンツ部分に最新の情報を盛り込めるよう、別冊発行等を検討します。

3. 主催・共催事業に関する事項

2019年度は以下の事業を予定しております。(■主催事業・□共催事業)

- 第24回日本バーチャルリアリティ学会大会
2019年9月11～13日 東京大学本郷キャンパス (ICATと併催)
- ICAT-EGVE 2019
2019年9月11～13日 東京大学本郷キャンパス (第24回大会と併催)
- 第27回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2019)
予選大会 2019年9月11～13日 第24回日本バーチャルリアリティ学会大会(東京大学)内にて開催
決勝大会 2019年11月13～15日 DCEXPO 2019 (InterBeeと併催・幕張メッセ)内、あるいは2019年11月15～17日 JSTサイエンスアゴラ 2019 (日本科学未来館・テレコムセンター)内にて開催 (現在調整中)
- IEEE VR 2019
2019年3月23～27日 グランキューブ大阪

■ IEEE World Haptics 2019

2019年7月9～12日 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

□ 第29回「人工現実感研究会」

連催：ヒューマンインタフェース学会 SIG-VR研究会，電子情報通信学会，マルチメディア・仮想環境基礎研究会，映像情報メディア学会 ヒューマンインフォメーション研究会

2019年7月頃 東京大学 山上会館（予定）

□ 高臨場感ディスプレイフォーラム 2019（予定）

共催/連催：映像情報メディア学会（映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会，情報ディスプレイ研究委員会，立体映像技術研究委員会），画像電子学会，電気学会（電子デバイス技術委員会，ユビキタスディスプレイ調査専門委員会），電子情報通信学会（電子ディスプレイ研究専門委員会）（予定）

日程調整中

4. 企画事業に関する事項

2019年度は以下の企画を予定しております。

(1) 研究委員会

各研究委員会は，本年度以下のように16の研究会在，シンポジウム，セミナー等の開催を予定しています。

各研究委員会が独自に企画して行うこれらのイベントをより活性化し，VRに関する研究のさらなる発展に寄与したいと思っています。

研究委員会名	研究会開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	4	継続
複合現実感研究委員会	4	継続
アート&エンタテインメント研究委員会	3	継続
VR心理学研究委員会	2	継続
テレマージョン技術研究委員会	3	継続
香り・味と生体情報研究委員会	3	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	1	継続
ハプティクス研究委員会	8	継続
情報技術と文化の融合調査研究委員会	4	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	1	継続
デジタルミュージアム研究委員会	2	継続
VRと超臨場感研究委員会	3	継続
テレグジスタンス研究委員会	4	継続
超高齢社会のVR活用研究委員会	2	継続
超人スポーツ研究委員会	2	継続
神経刺激インターフェース研究委員会	2	新規

(2) VR技術者認定講習会・認定試験

■第16回VR技術者認定講習会・試験（セオリーコース） 初夏予定

■第17回VR技術者認定講習会・試験（アプリケーションコース） 秋予定

5. 会議に関する事項

(1) 総会

2019年通常総会を3月29日に東京大学本郷キャンパス 工学部2号館にて行います。

(2) 理事会

合計6回(1月, 3月, 5月, 7月, 9月, 11月)の理事会を開催する予定です。

尚, 理事会のない月に会長・副会長及び総務・会計担当者による総務会議を開催する予定です。

(3) 評議員会

合計2回の評議員会を開催する予定です。

回	開催日	会場	主な議事
1	3月29日	東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館	年間報告・計画について
2	9月12日	東京大学 本郷キャンパス	年間報告・計画について

6. 表彰に関する事項

(1) フェロー

会長を委員長とするフェロー選考委員会を組織し,2019年フェロー称号の授与者を決定する予定です。

(2) 論文賞

論文誌 Vol.23, No.1 から Vol.23, No.4 に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し, 5件程度の論文に論文賞を贈呈する予定です。

(3) 学術奨励賞

第24回日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者に対して, 学術奨励賞を贈呈する予定です。

第5号議案 2019年度 収支予算

収支予算書

2019年1月1日から2019年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位：円)

1) 収入の部			2018年度予算案	2019年度予算案	増減	備考
大科目	勘定科目 中科目	内訳科目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		3,000	3,000	0	
入金会金収入	入金会金収入		900,000	900,000	0	
会費収入	正会員会費収入		10,000,000	10,000,000	0	
	学生会員会費収入		1,500,000	1,500,000	0	
	賛助会員会費収入		3,800,000	4,000,000	200,000	
	一般会員会費収入		200,000	200,000	0	
	購読会員会費収入		600,000	600,000	0	
事業収入	過去会誌頒布収入	(会員のみ)	50,000	50,000	0	
	研究発表会収入	大会	8,350,000	8,350,000	0	
		IVRC	4,220,000	4,220,000	0	
		IEEEVR 2019	0	70,000,000	70,000,000	
		World Haptics	0	35,000,000	35,000,000	
		研究委員会活動収入	2,500,000	3,700,000	1,200,000	研究発表会収入合計 121,270,000
	管理費収入	大会	1,500,000	1,500,000	0	
		IVRC	422,000	422,000	0	
		IEEEVR 2019	0	2,000,000	2,000,000	
		World Haptics	0	3,500,000	3,500,000	
		講習会	360,000	281,500	▲78,500	管理費収入合計 7,703,500
	通常総会収入		90,000	90,000	0	
	講習会収入		3,600,000	2,815,000	▲785,000	
	投稿料収入		4,500,000	3,000,000	▲1,500,000	
その他収入	雑収入		1,800,000	2,100,000	300,000	
	受取利息収入		10	10	0	
当期収入合計			44,395,010	154,231,510	109,836,500	
前期繰越収支差額			41,766,420	48,389,238	6,622,818	
収入合計			86,161,430	202,620,748	116,459,318	
2) 支出の部			2018年度予算案	2019年度予算案	増減	
大科目	勘定科目 中科目	内訳科目				
管理費	事務局運営費		0	5,000,000	5,000,000	
	印刷費		200,000	200,000	0	
	消耗品費		500,000	200,000	▲300,000	
	諸会費		80,000	90,000	10,000	
	図書費		10,000	10,000	0	
	福利厚生費		20,000	20,000	0	
	通信運搬費		250,000	250,000	0	
	情報システム管理費		1,000,000	2,740,000	1,740,000	
	電子広報費		170,000	170,000	0	
	会議費		170,000	240,000	70,000	
	雑給費		11,500,000	2,000,000	▲9,500,000	
	光熱水料		120,000	90,000	▲30,000	
	賃借料		2,000,000	1,500,000	▲500,000	
	顧問料		240,000	130,000	▲110,000	
	支払手数料		200,000	200,000	0	
	租税公課		3,000	3,000	0	管理費合計 12,843,000
事業費	通常総会費		370,000	460,000	90,000	
	研究発表会費	大会	8,350,000	8,350,000	0	
		IVRC	4,220,000	4,220,000	0	
		IEEEVR 2019	0	70,000,000	70,000,000	
		World Haptics	0	35,000,000	35,000,000	
		研究委員会活動費	2,500,000	3,700,000	1,200,000	研究発表会費合計 121,282,000
		その他	12,000	12,000	0	
	補助金	IVRC	1,000,000	1,500,000	500,000	
	講習会		1,680,000	2,600,000	920,000	
	研究部会費		1,050,000	1,100,000	50,000	
	印刷製本費		4,800,000	5,900,000	1,100,000	
	通信運搬費		700,000	800,000	100,000	
	授与費		500,000	500,000	0	
その他	雑備金積立		700,000	700,000	0	
当期支出合計			42,345,000	167,685,000	125,340,000	
当期収支差額			2,050,010	▲13,453,490	▲15,503,500	
次期繰越収支差額			43,816,430	34,935,748	▲8,880,682	
支出合計			86,161,430	202,620,748	116,459,318	

第6号議案 2019年度 理事および監事の選出

本会定款第13条に従って、2019年度理事および監事の選出を行います。

役員候補者選出選挙で選出された理事および監事の候補者は以下の通りです。

■ 会長		
任期1年 (非改選 任期2020年3月まで)		
岩田 洋夫	筑波大学	1957年東京生まれ。1981年 東京大学工学部機械工学科卒業，1986年 東京大学大学院工学系研究科修了（工学博士），同年筑波大学構造 工学系助手。現在筑波大学システム情報工学系教授。バーチャルリアリティ，特にハプティックインタフェース，ロコモーションインタフェース，没入 ディスプレイの研究に従事。 SIGGRAPH の Emerging Technologies に1994年より14年間続けて入選。東京テクノフォーラム・ゴールドメダル賞(1998年)，文化庁メディア芸術祭優秀賞（2002年），文部科学大臣表彰 科学技術賞(2011年)などを受賞。2013年より，筑波大学グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラムリーダー。1996年～2007年本学会理事。2010年～2013年本学会副会長。【2018年度：会長】
■ 副会長		
任期1年 (非改選 任期2020年3月まで)		
大須賀 美恵子	大阪工業大学	1957年兵庫県生まれ。1979年東京大学計数工学科卒業，同年，三菱電機株式会社入社。中央研究所，先端技術総合研究所にて生理心理学分野の研究，バーチャルリアリティ応用を含むウェルネスシステム開発に従事。1994年博士（工学）。2002年大阪工業大学情報科学部情報メディア学科教授，2006年同大学工学部生体医工学教授，2010年同大学工学部ロボット工学科教授，2017年同大学ロボティクス&デザイン工学部学部長・ロボット工学科教授。2002～2005年本学会理事。ヒューマンインタフェース学会会長，日本生体医工学会理事，日本人間工学会理事などを歴任。【2018年度：副会長】
任期2年 (改選 任期2021年3月まで) *新任		
小木 哲朗	慶應義塾大学	1960年神奈川県生まれ。1984年東京大学工学部機械工学科卒業，1986年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了，同年三菱総合研究所入社，1994年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了，博士（工学）。1996年東京大学大学院工学系研究科助教授，1999年通信・放送機構 MVL リサーチセンター研究員，2004年筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授，2008年より慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。ヒューマンインタフェース，バーチャルリアリティの研究，特に没入型ディスプレイ，高臨場感通信，VR/ARの各種アプリケーション開発に関する研究に従事。【新任】
■ 理事		
任期1年 (非改選 任期2020年3月まで)		
今村 伊知郎	ソリッドレイ	1991年東京農工大学工学部電子情報工学科（旧応用物理科）卒，1994年同大学院工学研究科物理工学専攻博士課程後期中退，同年株式会社ソリッドレイ研究所入社，開発・サポート・営業支援などを渡り歩き，システム営業部に所属，専門部長。【2018年度：理事】
上岡 玲子	九州大学	九州大学芸術工学研究院 准教授。1997年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。NTT ヒューマンインタフェース研究所，米国衛星通信会社 PanAmSat に勤務。2003年東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。（博士（工学））東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー，先端科学技術研究センター特任助教，産業技術総合研究所サービス工学研究センター産総研特別研究員を経て2012年4月より現職。ヒューマンインタフェース，バーチャルリアリティの研究に従事。近年は，e-テキスタイルによるウェアラブルインタフェース，クロスモーダルな感覚提示によるエモーショナルエンジニアリングなどの研究を行う。本学会では，日本 VR 学会学会誌編集委員（2012-2014年）（VR メディア評論，特集

		号「VR と美容」を担当)。VR と超臨場感研究委員会幹事を務める。【2018 年度：理事】
北村 喜文	東北大学	1987 年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。キヤノン株式会社, ATR 通信システム研究所, 大阪大学大学院工学研究科/情報科学研究科を経て, 2010 年から東北大学電気通信研究所教授。博士 (工学)。本学会 1998~2008 年学会誌編集委員, 2003~2008 年編集幹事, 2003~2008 年, 2012~2015 年評議員, 2008~2011 年, 2016 年~理事, 1999 年第 4 回大会幹事, 1998 年~2001 年 VR における計測技術研究委員会委員長。2009 年より 3 次元ユーザインタフェース研究委員会委員長, フェロー。2006 年貢献賞, 2007 年論文賞を受賞。国際会議 JVRC, ICAT, EGVE, IEEE 3DUI, ACM VRST, ACE, ITS, SIGGRAPH Asia など Program Chair, Symposium/ Conference Chair, Steering Committee などを務めてきている。IFIP TC-13 日本代表, ACM SIGCHI Conference Management Committee, Asian Development Committee などの委員。【2018 年度：理事】
佐藤 克成	奈良女子大学	2006 年東北大学工学部電気・電子・応物・情報学科卒業。2011 年東京大学情報理工学系研究科システム情報学専攻博士課程修了, 博士 (情報理工学)。同年より日本学術振興会特別研究院 (PD) として, 慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント 研究科在籍。2013 年より奈良女子大学生活環境学部講師, 現在に至る。触感情報伝達のための計測・提示装置の開発, 温冷感の知覚メカニズムの解明および計測・提示 技術の応用などの研究に従事。【2018 年度：理事】
谷川 智洋	東京大学	1997 年東京大学工学部産業機械工学科卒業。1999 年同大学大学院工学系研究科機械情報工学専攻修士課程修了。2002 年同大学博士課程修了。同年通信・放送機構研究員。2004 年組織変更により情報通信研究機構研究員。2005 年東京大学先端科学技術研究センター講師。2006 年同大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻講師, 2016 年同特任准教授, 現在に至る。イメージ・ベスト・レンダリング, 複合現実感に関する研究に従事。多数の展示やスマートフォンアプリを公開するなどデジタルミュージアムやライブログなどの積極的な社会展開も行っている。2006~人工現実感研究会 (日本 VR 学会, ヒューマンインタフェース学会, 信学会 MVE, 映像情報メディア学会 HI 研究会) 幹事, 2008~香り・味と生体情報研究委員会幹事, 2014~同副委員長, 2002~2006 ニューズレター委員会委員, 2006~論文誌委員会委員, 2011~2015 同幹事。【2018 年度：理事】
長谷川 晶一	東京工業大学	1997 年東京工業大学工学部電気電子工学科卒業。1999 年同大学大学院知能システム科学専攻修士終了。同年ソニー株式会社入社。2000 年東京工業大学精密工学研究所助手。2006 年 9 月博士 (工学)。2007 年電気通信大学知能機械科准教授。2010 年東京工業大学精密工学研究所准教授, 未来産業技術研究所に改組, 現在に至る。力触覚, 物理シミュレーション, バーチャルヒューマン, ヒューマンインタフェースロボットの研究に従事。2011-14 本会理事(広報出版担当), 2012-14 アート&エンタテインメント研究委員長, 2015-2017 力触覚の提示と計算研究委員長, 2016.4-2018.3 情報処理学会エンタテインメント研究会主査。【2018 年度：理事】
藤田 欣也	東京農工大学	1983 年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。1988 年同大学院理工学研究科博士課程修了 (工学博士)。相模工業大学, 東北大学医学部, 岩手大学を経て, 現在東京農工大学大学院工学研究院先端情報科学部門教授。1996~1997 年アルバータ大学神経科学部門客員研究員。人の知覚特性を利用した力触覚提示や手指を用いた VR 作業, オフィス作業者の割り込み調停などの研究に従事。2004~2008 年論文委員。2009~2011 年力触覚の提示と計算研究委員会委員長。2010~2013 年本学会理事。【2018 年度：理事】
柳田 康幸	名城大学	1988 年東京大学工学部計数工学科卒業, 1990 年同大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了, 同年東京大学助手。2001 年(株)国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 研究員, 2003 年同主任研究員。2005 年名城大学理工学部情報工学科教授, 現在に至る。博士 (工学)。本学会 2006~2009, 2012~2015 年度理事 (広報・出版/

		<p>総務担当), 第 1, 2, 7, 9, 18~19 回大会実行委員, 1996~2001 年ニューズレター編集委員, 2003~2006 年同幹事 (現顧問), 2008 年~2016 年企画委員, 2006 年より IVRC 運営委員, 2007 年より ICAT 運営委員, 2013 年より論文委員, 2010~2011, 2016~2017 年度評議員, 2011~2013 年香り・味と生体情報研究委員会副委員長, 2014 年より同委員長などを務める. IEEE VR Program Committee (2002 年以降 10 回), ICAT 2008 Program Chair, ISVRI 2011 General Co-chair などを担当. テレグジスタンス, 触覚・嗅覚を含む感覚ディスプレイ技術などの教育研究に従事.</p> <p>【2018 年度: 理事】</p>
任期 2 年 (改選)	任期 2021 年 3 月まで)	*再任
雨宮 智浩	NTT コミュニケーション科学基礎研究所	<p>2002 年東京大学工学部機械情報工学科卒業, 2004 年同大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了, 同年日本電信電話株式会社入社, NTT コミュニケーション科学基礎研究所勤務. 2015 年より同研究所 主任研究員(特別研究員), 現在に至る. 2014~2015 年ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) 認知神経科学研究所客員研究員兼務. 博士(情報科学). 触覚特性や身体感覚の錯覚を利用した情報提示インタフェース, 障がい者支援の研究に従事. 2006 年~2010 年本学会ニューズレター編集委員会, 2010 年~2014 年同幹事. 2015 年~本学会論文委員. 2009 年~2019 年ヒューマンインタフェース学会評議員, 2019 年~同学会理事. 2013 年~同学会学会誌委員会幹事. 2015 年~2017 年同学会論文誌委員会幹事. 2017 年~信学会福祉情報工学研究会幹事. 【2018 年度: 理事】【再任】</p>
伊藤 雄一	大阪大学	<p>1998 年大阪大学工学部電子工学科卒業. 2000 年同大学大学院工学研究科博士前期課程修了. 2002 年同大学院情報科学研究科助手. 2008 年より大阪大学クリエイティブユニット准教授. 博士 (情報科学). 専門はヒューマンインタフェース, デバイスメディア, アンビエントコンピューティング, マルチモーダルデバイスなど. 近年は特に人の行動取得と行動変容を無意識下を実施する無意識コンピューティングの研究などに従事. 本学会ニューズレター編集委員 (2008-2012 年), 18 回年次大会幹事補佐・プログラム委員 (2013 年), 22 回年次大会プログラム委員 (2017 年).</p> <p>【2018 年度: 理事】【再任】</p>
大谷 智子	東京藝術大学	<p>東京藝術大学芸術情報センター助教. 2004 年, 聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻博士後期課程満期退学. 東京大学大学院情報学環特任助教, 東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー特任研究員, 東北大学電気通信研究所助教を経て, 2015 年度から現職. 2008 年に聖心女子大学にて博士号 (心理学) 取得. 人間の色知覚に関する研究や, インタフェースやデジタルコンテンツの心理学的評価を行うとともに, 当該分野の一般社会への理解増進事業に従事. 近年は, 錯視ブロックを用いた二次元平面と三次元立体の対応に関する研究や, マルチモーダル環境下における臨場感・迫真性に関する研究等を行っている. 本学会では, 日本 VR 学会学会誌編集委員 (2015 年~) (2015~2017 年 9 月は VR メディア評論を担当). 情報技術と文化の融合調査研究委員会幹事 (2007 年~) を務める. 【2018 年度: 理事】【再任】</p>
梶本 裕之	電気通信大学	<p>1998 年東京大学工学部計数工学科卒業. 2001 年同大学大学院計数工学専攻修士修了. 同年日本学術振興会特別研究員 (東京大学大学院情報理工学系研究科), 2003 年 東京大学大学院情報理工学系研究科助手, 2006 年電気通信大学人間コミュニケーション学科助教授, 2007 年同准教授, 2010 年電気通信大学総合情報学専攻准教授, 2018 年電気通信大学情報学専攻教授, 現在 に至る. 博士 (情報理工学). 2010 年より VR 学会論文誌委員会幹事. 主に触覚インタフェース, 情動インタフェース等の研究に従事. 2012~2015 年本学会理事. 【2018 年度: 理事】【再任】</p>

清川 清	奈良先端科学技術大学院大学	1994 年大阪大学基礎工学部情報工学科三年次中途退学。1996 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。1998 年同博士後期課程修了。1998 年日本学術振興会特別研究員。1999 年郵政省通信総合研究所（現・情報通信研究機構）研究官。2001 年ワシントン大学ヒューマンインタフェーステクノロジー研究所客員研究員。2002 年大阪大学サイバーメディアセンター助教授。2007 年同准教授。2017 年奈良先端科学技術大学院大学教授。現在に至る。博士（工学）。2002 年 Elsevier Computer & Graphics Best Paper Award, 2002 年情報化月間推進会議議長表彰, 2006 年本学会貢献賞, 2011 年 ICAT 2011 Best Paper Award 等受賞。本学会では、学会誌委員, 論文誌委員, 企画委員（現顧問）, 情報システム委員, ICAT 運営委員, 広報・出版委員, アジアグラフ運営委員, 10 周年記念委員, 3 次元ユーザインタフェース研究委員会委員（現幹事）, 複合現実感研究委員会委員（現委員長）, 第 18 回大会幹事などを務める。IEEE 3DUI Symposium Co-Chair (2008~2010), ACM VRST Program Co-Chair (2009), IEEE ISMAR Program Co-Chair (2012, 2013), IEEE VR Program Co-Chair (2012, 2014)等を務める。拡張現実感, 複合現実感, 3 次元ユーザインタフェース, ウェアラブルコンピュータ, コンピュータビジョン, 協調作業などの 研究に従事。【2018 年度：理事】【再任】
森山 朋絵	東京都現代美術館	東京都現代美術館学芸員（企画係主任）。1996 年より VR 学会に参加, 評議員, VR 文化フォーラム/ASIAGRAPH 担当等を務める。1989 年筑波大学大学院博士課程前期修了, 後期退学。在学中より学芸員として東京都写真美術館・映像展示室の創立に携わり, 国内外で約 50 本のメディアアート展を企画, 2007 年より現職。2005-2010 年まで東京大学大学院情報学環特任准教授, 2000 年から現在まで早稲田大学（文学部, 国際 情報通信研究科, 表現工学科）のほか, 慶應義塾大学, 東京藝術大学, 独バウハウス大学, UCLA 他で教鞭を執る。2003 年に文化庁在外派遣研究員として独 ZKM, 米 MIT メディアラボに滞在, J. P. ゲッティ研究所コンサルティングキュレーター, アルスエレクトロニカ・グランプリ審査員, 文化庁メディア芸術祭審査員, SIGGRAPH Asia2008(シンガポール)にて日本人初の Art Gallery /Emerging Technologies 議長, NHK 日本賞審査員などを歴任。文化審議会専門部会委員などの活動を通して, メディア芸術拠点としての公立文化施設の成立と展開, テクノロジーと芸術の協働や展示支援をテーマに研究と実践を行う。主な企画展に「映像体験ミュージアム」「文学の触覚」「名和晃平—シンセシス」「吉岡徳仁—クリスタライズ」「ミッション[宇宙×芸術]」, 文化庁メディア芸術祭海外展（リンツ市）, 同愛知展（旧「愛・地球博」会場）。主な著作に『映像体験ミュージアム』（共著・監修, 工作舎）, 『絵コンテの宇宙』（監修, 美術出版社）, 『Meta-Visual(French Edition)』（共著・監修）など。【2018 年度：理事】【再任】
任期 2 年（改選 任期 2021 年 3 月まで） *新任		
黒田 晴彦	デル	1980 年東北大学電気工学科卒, 同年三井物産株式会社入社。1998 年欧州三井物産システム課 General Manager, 2003 年三井物産経営改革推進部 IT 戦略企画室長, 2009 年 IT 推進部副部長。Chief IT Architect として三井物産におけるグローバルシステム全体像のランドデザイン (IT-Landscape) 設計と構築を担当。2016 年デル株式会社最高技術責任者に就任, デル日本法人が提供する技術及びエンド・ツー・エンドソリューションの展開を統括, 日本市場における VR の普及・拡大等の活動を推進中。【新任】
苗村 健	東京大学	1997 年, 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了。米国スタンフォード大学客員助教授（日本学術振興会海外特別研究員）を経て, 2002 年, 東京大学大学院情報学環助教授。同情報理工学系研究科電子情報学専攻准教授を経て, 2013 年, 同情報学環教授, 現在に至る。メディア+コンテンツ, 実写に基づく映像合成, 複合現実感, 実世界指向情報環境, アート&エンタテインメントなどの研究に従事。2013 年, 日本科学未来館において「現実拡張工房」の企画を開催し, 129000 名の来場者を記録。文部科学大臣表彰若手科学者賞, 日本バーチャルリアリティ学会論

		文賞，ヒューマンインタフェース学会論文賞，映像情報メディア学会丹羽高柳賞論文賞，電子情報通信学会 HCG 賞，経産省 Innovative Technologies，グッドデザイン賞など受賞多数。博士(工学)。【新任】
野間 春生	立命館大学	1989 年筑波大学第三学群基礎工学類卒業，1994 年筑波大学博士課程工学研究科修了。同年株式会社国際電気通信基礎技術研究所入所，2013 年から立命館大学 情報理工学部 教授。専門はバーチャルリアリティ，特にハプティックインタフェース，さらには，ユビキタスコンピューティング，ウェアラブルセンサ，センサーネットワーク等の研究にも従事。博士(工学)。日本バーチャルリアリティ学会，計測自動制御学会，電子情報通信学会，日本ロボット学会，IEEE，ACM 各会員。本学会では初期のニューズレター委員，学会誌委員などを過去に歴任。【新任】
■ 監 事		
任期 1 年（非改選 任期 2020 年 3 月まで）		
榎並 和雅	東京工業大学	1971 年東京工業大学卒，同年 NHK 入局，同放送技術研究所にて番組制作技術などの研究推進，02 年 NHK 総合企画室〔デジタル放送推進〕担当局長，04 年 NHK 放送技術研究所所長。06 年から情報通信研究機構に移り，同ユニバーサルメディア研究センター長，08 年同けいはんな研究所長，10 年同理事，13 年同脳情報通信融合研究センター副センター長，14 年東京工業大学監事(常勤)現職。博士(工学)。超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム会長代理，映像情報メディア学会元副会長・現名誉会員，IEEE フェロー。市村学術賞，放送文化基金賞，映像情報メディア学会論文賞，前島賞 受賞。2014-15 年本学会会長。【2018 年度：監事】
任期 2 年（改選 任期 2021 年 3 月まで） *新任		
石橋 聡	NTT テクノクロス	1982 年 徳島大学大学院工学研究科（情報工学専攻）を修了。同年日本電信電話公社（現 NTT）入社。以来研究所を中心に，画像処理・映像符号化技術開発および画像通信サービス開発に従事。1988 年 ATR 通信システム研究所。2008 年より NTT サイバースペース研究所長。2010 年 NTT アイティ（株）取締役を経て，現在，NTT テクノクロス（株）技師長。2013-16 年 本学会副会長。2017 年 画像電子学会会長。主な著書（共著）『デジタル・ビジュアル通信技術』，『デジタル情報表現の基礎－音声・画像の符号表現』。1992 年 映像情報メディア学会鈴木記念賞受賞。2015 年 画像電子学会フェロー。工学博士。【新任】

第7号議案 定款の変更

以下のように定款を変更致します。第1の変更は、学会事務業務の委託に伴う事務局所在地の変更によるものです。第2の変更は、電子メールやWEBなどの電子的な方法による総会での表決や理事会の招集を可能にするためのものです。

変更点：下線部分の追記，ならびに取り消し線部分の削除

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を東京都新宿区文京区、~~及び京都府下京区~~に置き、必要に応じ支部を置くことができる。

(総会での表決権等)

第29条 各正会員及び一般会員の表決権は平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員及び一般会員は、予め通知された事項について、書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員及び一般会員を代理人として表決を委任することができる。

(理事会の招集)

第34条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長は、前条第2号の場合にはその日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。